

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1492600265
法人名	特定非営利活動法人 シンフォニー
事業所名	NPO法人 グループホームアダージョ
訪問調査日	平成29年2月21日
評価確定日	平成29年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成28年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600265	事業の開始年月日	平成22年10月1日	
		指定年月日	平成28年10月1日	
法人名	特定非営利活動法人 シンフォニー			
事業所名	NPO法人 グループホームアダージョ			
所在地	( 252-0333 )			
	相模原市南区東大沼3-22-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成29年2月8日	評価結果	平成29年4月12日	
		市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://center.rakuraku.or.jp/>

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型サービスとして地域交流に力を入れています。  
 定期的に大沼保育園、大沼小学校の子どもたちをお招きし、交流会を実施しています。また、運動を兼ねて徒歩圏のレストランで外食をしたり、近隣の商店で入居者様をお連れし、買い物レクリエーションをするなど、馴染みのある場所で日々の暮らしを楽しめるよう力を入れております。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成29年2月21日	評価機関 評価決定日	平成29年3月31日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所の運営は、NPO法人シンフォニーです。同法人は、グループホーム2事業所、デイサービス2事業所、有料老人ホーム1事業所を運営しています。この事業所は平成22年10月に相模原市南区大沼の住宅地に鉄筋2階建て定員18名2ユニットで開設しました。場所は「小田急線相模大野駅」からバスで8分、バス停から徒歩3分であり、周辺は小学校、公民館、保育所、子どもセンター等もある住宅地の中に位置し、地域交流が図り易い環境にあります。

●理念は、「これまでの生活を尊重し、心のこもったケアで懐かしい音楽、映画などを楽しみ、時には土に触れ、地域交流を持ち、笑顔の絶えないグループホームを目指す」です。理念をユニットの入り口、事務所、リビング等の目につく場所に掲示し、申し送り時やミーティング時に唱和し、共有しています。利用者の残存能力を維持しながら、認知症も味方にして笑顔溢れる生活を目指しています。ケアについて、利用者は個々に違いますので個別ケアを徹底し、利用者の残存能力を発揮していただき、やり過ぎないケア、残存機能を落とさないケアに取り組んでいます。

●職員の教育については、最重点に考えており、所定の受け入れ研修を終了後、早番、遅番、日勤、夜勤の4シフトを先輩職員をインストラクターとして各2日間づつ研修を行った上で実務に就く体制をとっています。現任職員は年間研修予算を組み、研修計画を立てて、定期的に、複数事業者連携事業の研修を初めとした外部研修に参加させています。同じ法人内のデイサービスの看護師による感染症対策の研修も実施しています。また、ケア記録の電子化、グループ内のネットワーク化を実現し、事務面の負担軽減でより手厚く利用者の介護に手が廻るようになっていきます。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	NPO法人 グループホームアダージョ
ユニット名	Bユニット 1階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニット玄関、事務所、リビングに掲示している。職員は入社時に理念の説明を受けており、申し送りの際に唱和し共有確認している。 理念に沿い、音楽イベント開催、大沼小学校、大沼保育園との交流会実施。他、散歩にて地域住民と交流があります。	理念は、「これまでの生活を理解・尊重し、心のこもったケアで懐かしい音楽、映画などを楽しみ、時には土に触れ、地域交流を持ち、笑顔の絶えないグループホームを目指す」です。理念をユニットの入り口、事務所、リビング等の目につく場所に掲示し、申し送り時やミーティング時に唱和し、共有しています。利用者の残存能力を維持しながら、笑顔溢れる生活を目指しています。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の大沼こどもセンターを散歩の休憩場所として利用し地域住民と交流している。	町内会に加入し、祭りなどの行事に参加したり、日々の散歩時に大沼子どもセンターを休憩場所とするなど地域の方々と交流を図っています。また、近くの小学校から招待を受けて運動会の見学や、公民館で行われているサークルの方々に楽器演奏会、大道芸、ダンス、マジック等、イベントとして来訪頂くなど、地域との交流が活発に行われています。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での催事や祭りに可能な限り出席し、近隣住民に対して施設への理解と周知に努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年に引き続き、地域老人会会長に運営推進会議に参加して頂いている。会議ではホームの活動状況や懸案事項について話し合い、地域社会側からの要望や助言を頂いて運営に活かすよう努めている。また、以前入居ご家族にオブザーバーとして加わって頂き、率直なご意見を頂いている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しています。町内会長、大沼高齢者支援センター職員、老人会会長、民生委員、家族代表、利用者、管理者、計画作成担当者他のメンバーで実施し、事業所の活動状況や懸案事項に加え今後の行事予定なども報告、話し合いをしながら、出席者から意見・要望や助言をいただき、運営とサービス向上に活かしています。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相模原市の高齢政策課と連絡を密に取り、運営の方法について相談している。 事業所レベルで判断が難しい案件が生じたときは担当課と相談の上、処理にあたっている。	相模原市の介護保険課と連絡を密に取り、事業所の運営方法、入居者状況、事故報告などについて相談しています。市主催の研修やグループホーム連絡会に参加し、情報共有しています。24時間運営している施設が、地域で徘徊している人を発見した際の初期対応窓口として受け入れ、警察に連絡するなどのサービスをすることが決まりました。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について施設内研修を実施。各居室の施錠については、ご入居者の意向を尊重し、個別に対応している。	身体拘束についてのマニュアルを整備しています。状況に応じて随時内部研修を行ない、何が身体拘束に当たる行為なのか、それを行う事によるデメリット等について事例を挙げて全職員に理解を促し、身体拘束の無いケアを実践しています。各居室の施錠は、利用者の意向を尊重して個別対応を行っています。玄関の施錠については、事業所の前の道は交通量も多いことから、家族了承の下に施錠しています。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の介護内容はユニットリーダーが常に監督し、必要があれば理事長に報告して再教育をしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の判断能力が十分でない場合は、ご家族の求めに応じて、成年後見人制度について話し合い、手続きや機関を紹介している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書をもとに利用者・ご家族に対して分かりやすく説明している。初回の請求額は概算を提示し、内訳についても説明をしている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談窓口を重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。 また、家族会（年4回）や運営推進会議（2ヵ月毎開催）を設けて要望を運営に反映できるように努めている。	利用者の意見、要望については、日常の会話の中から拾い上げ、その都度、職員がパソコンのケース記録に残して介護計画に反映しています。苦情や相談窓口を重要事項説明書に明記し、契約時に説明しています。また、家族会や運営推進会議での要望、家族の来所時に管理者または職員による面接で、近況報告と共に意見、要望を聴き運営に反映させるように努めています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各部署の責任者で構成される主任会議において、「職員の声」を共有し、検討している。良いアイデアや実現可能な要望については、運営に反映させている。	理事長出席のもと本部で毎月行われる管理者会議で、職員からの意見を検討します。また、毎月事業所で行なわれる社員会議にも理事長が参加し、直接「現場職員の声」を聴き、運営に反映させるようにしています。また、管理者は職員から意見要望などを日常的に聴いて対応するように心がけています。個人面談は、半年に1回理事長、管理者と各職員との間で全員実施しています。	今後の継続	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の賃金改善のため、処遇改善加算を申請している。就業規則や有給休暇管理台帳を事務所に備え付け、いつでも職員が閲覧できるようにしている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	予算で研修費を取っており、交通費・研修手当を支給している。また、研修のお知らせを掲示し、職員の求める研修に参加できるようシフトの調整を図っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相模原市のグループホーム連絡会や介護事業所交流会に出席し、同業者との交流を図っている。他事業所での良い取り組みがあれば、事業所に持ち帰り検討したうえで取り入れている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始前には、見学を勧めている。また、見学後には面談日を設けて、本人の不安なことやニーズについて話し合い、入所後の暮らしぶりを共有できるよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談時にご家族と話し合い、施設でできることを説明している。 特に主介護者の方には、辛かったことや困っていることを時間をかけて傾聴するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に要望をしっかりと聞きだし、場合によっては他の施設サービスを紹介することもある。 「介護情報サービスかながわ」を紹介し、ご自身でも検索できるように案内している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の自立度に合わせて、調理や洗濯、掃除を職員と協同して施設運営している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力病院外の通院に関しては、原則ご家族に付き添いの協力を要請している。 施設での催事においても、ご家族に協力を仰いで協働して進めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会記録をつけているので、長期面会の無い方にはホームから連絡を取って来所するように促している。 また、ご家族の協力により、馴染みの友人や兄弟の面会もある。	これまでの本人の馴染みの場所や人間関係は、日頃の会話や家族からの情報で把握しています。また、電話や面会の取継ぎは、本人や家族の意向を確認したうえで行っています。一方、長期間面会の無い場合には、事業所から関係者へ連絡して来訪を促しています。現在、3ヶ月毎の家族会には全家族の出席があり、思い出の場所等の訪問は家族の協力を得ながら、お墓参り等に行けるように支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ケアカンファレンスを通じ、利用者の暮らしぶりについて意見を出しあい、席の配置やレイアウトについて検討している。 また、一人ひとりの趣味や嗜好を把握し、利用者同士が関わりあえるようなレクリエーション活動を取り入れている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	提携の特別養護老人ホームに入所した方は面会する機会を作り状況を把握している。退去後も協力が可能なご家族にはホームへ来所してボランティアとして協力を頂いている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「入居事前面談」にてこれまでの生活歴や趣味等をお聞きして面談記録を作成し職員内で共有している。入居後もティータイムやレク時の日常会話からご入居者の意向をくみ取る努力をしている。また、言語コミュニケーションが難しい方であっても、表情や動作等から読み取る努力をしている。	入居前の事前面談にてこれまでの生活歴や趣味等を伺い、面談記録を作成して職員間で共有しています。その後は日々の支援の中で、本人の能力、本人からふと漏れる言葉、家族の発言、職員の対応、ケアのヒント工夫、医師・看護師の医療情報などを時系列にケース記録に記入し情報を共有しています。いつもと違う症状が有る場合は、状況に応じて家族、看護師、医師など関係者に連絡して早期の対応に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前にはご入居者が実際に生活されているお宅の訪問をして生活歴、環境、生活サイクルのデータを取っている。 また、居室にはこれまで使用していた物を持ち込んでもらい、入居以前と変わらない生活が出来るように工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンスにおいて、介護職員からケアマネージャーに対して入居者の近況報告が行われる。変化の見られる入居者については課題を再設定しケア記録に入力するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、入居初期は事前面談の記録やご家族からの情報を基に暫定的な計画が立てられ、約1ヶ月は様子を見る。その後は家族会ごとの話し合いが持たれ、本人やご家族の意向を聞き、見直しが図られる。定期的に入居者、家族、関係者の意見を聞き、現状に即した計画をしている。	入居前に興味で行っていた事や生活習慣・生活歴等を本人・ご家族から聞き取り、面談記録を作成し、初回の介護計画に反映させています。1ヶ月程度初回計画で様子を見て、各人の全ての情報が記入されているケース記録をもとにして見直し介護計画を作成します。暫定で作成した介護計画を家族会等で直接確認していただき、家族の意見を入れて毎月のケアカンファレンスで、職員全員で検討します。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状況は個別のケア記録に入力している。介護計画に記号を付し、ケア記録入力時にも同じ記号を使うことでケアマネージャーが計画を見直す時に役立てている。特記事項に関しては、申し送りファイルに記入し、職員は就業前に確認するよう義務付けている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険制度上のサービスでは対応しきれないニーズもあるため、可能な限り支援できるよう努めている。福祉用具やおむつ等はホーム提携業者以外から購入することもある。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での催事や祭りには職員が付き添いをして参加している。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者やご家族の要望に応じて、協力医療機関の診療を月に2回受けている。専門医の診療や個別に懇意のかかりつけ医がある場合は、ご家族の協力で通院している。	本人、家族の意見を尊重し、希望の医療機関を決めてもらっています。協力医療機関の内科医院とは月2回の訪問診療と、24時間、看護師と連絡が取れる体制を整え、休日・夜間などの緊急時対応に加え、入院加療が受けられる体制を整えています。歯科は週1回の訪問と、週1回の看護師の訪問もあり、適切な医療支援が行われています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回提携訪問看護ステーションより看護師訪問がある。 職員は医療面における疑問や気づきを看護師に報告し、指示をもらっている。 また、電話連絡にて指示をもらうこともある。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院中であっても、定期的に職員が訪問して情報を収集し、退院後円滑に施設生活に戻れるように準備をしている。 また、ご家族の求めがある場合は、医療相談に同席することもある。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、当ホームはターミナルケアは行っていない為、入居時にホームで対応できることについてご家族に説明している。 対応としては重度化する前に提携を結んでいる特養への申込みを勧めている。また、重度化した場合、協力病院へ入院していただくこともある。	本人、家族の意思を尊重した話し合いの下に、重度化する前に協力医療機関の医師に相談し、病院を紹介してもらったり、提携している特別養護老人ホームを紹介しています。今後は、事業所を終の棲家として、最後の時間を大切にターミナルケアを行える事を目指しています。「重度化した場合の対応及び看取りに関する指針」を整備したので、近いうちに実施する運びになっています。		今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月次の施設会議にて緊急時の対応確認の場を設けている。 疑問点は法人内の看護師や協力医療機関の看護師に質問し職員の実践力向上に努めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内避難訓練を実施。 スプリンクラー、消火器、自動通報装置等の備品は定期的に検査を実施し非常用食料、水、リハビリパンツ等の衛生用品を備蓄している。 また、自治会に加入し、地域と連携した防災対策に努めている。	所轄消防署指導で定期的な避難訓練を月1回実施しています。災害時の行動手順の確認なども併せて事業所の自主防災訓練を2ヶ月に1回、設備業者による防災設備点検を年2回実施しています。非常用食料、水、リハビリパンツなど、衛生用品の備蓄もしています。また、地域主催の防災訓練にも職員が代表で参加し、地域との協力体制にも努めています。事業所の設備では消火器、スプリンクラー、火災報知機、自動火災通報装置を完備しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス規程には守秘義務や言葉遣いについての注意事項が盛り込まれており、職員は入社時に説明を受けている。利用者ご家族には契約時に「個人情報使用同意書」を交わし、医療機関への使用について了承を頂いている。なお、サービス規程については年1回再教育の時間を設けている。	サービス規程には守秘義務やプライバシーの保護、利用者の人格を尊重して介護に当たる旨が盛り込まれており、入社時にも説明を行っています。月次の合同会議時にも、再々の教育徹底を行ない、職員全員が理解共有しています。人格の尊重として、事業所での1日の流れ、体操、散歩など無理強いしないで本人の意志を尊重してすごしてもらっています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	デパートへの外出時や買い物時には本人の意向を聞き、要望の品物を購入している。レクリエーション時にもできるだけ希望を聞き、ご自身で選んでいただいている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課はあるが、無理強いせずに入居者のペースで過ごせるように支援している。就寝や起床時間も個人ごとに対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を定期的実施している。希望のある方は、ご家族の協力を得て美容室に通う方もいる。また、本人の要望で化粧品を近くのドラッグストアへ職員付き添いで買い物に行くこともある。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と一緒の食卓を囲んでいる。下ごしらえ、配膳、後方付けなどはご入居者と協力して行われている。また、ユニットごとに定期的に外食をし、その場で皆様にメニューを選んで頂くことがある。	食事は、配食業者の配達を受け、食事の準備にかかる時間をケアの充実にあてるようにしています。利用者の要望は、おやつに反映します。手伝いが出来る方には、盛り付け、食器洗いなどを手伝ってもらっています。職員と入居者が同じテーブルに付き、利用者に合わせてペースで談笑しながら食事しています。誕生日や行事の際には特別食やケーキ、外食を取り入れ、楽しめるよう支援しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事の摂取量は、介護観察記録に記録し管理を行っている。また、ヨシケイにて外注を頼み、カロリー摂取量の把握も務め、疾病等で食事制限がある利用者は個別のメニューで対応している。また、個人の嚥下能力にあわせ、食形態にも注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを習慣にしている。また、訪問歯科を定期的に入れて口腔ケアを実施している。舌苔ケアをしたほうが良いと歯科医師より指示があった入居者には個別に舌苔掃除ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記入を行い、個人ごとの排泄パターンを把握している。 リハビリパンツ使用の方でも兆候が見られたら声掛けをして極力トイレで排泄できるようケアしている。尿汚染の少ない方はトレーニングパンツを試み移行するようにしている。	排泄チェック表で、一人ひとりの排泄パターンを全職員で把握し、その人に合わせた時間、タイミングを見計らったトイレ誘導を行ない、自立排泄に向けた支援を行なっています。また、失敗の場合でも他の人に気付かれないよう、さりげない声かけや誘導で下着交換に努めています。軽失禁パンツの使用やリハパン使用の方にも声かけをしてオムツ使用を極力減らせるような取り組みが行われています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は主治医と相談しながら、服薬管理を進めている。また、ヨーグルトにオリゴ糖を混ぜて提供する等、腸内環境を良好に保つように取り組んでいる。できるだけ散歩や体操の時間を作り便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前と午後に入浴時間帯を設けている。 拒否のある方でも無理強いせず、入っていたるように各職員が一丸となって雰囲気作りをしている。入浴は入浴管理表に記録し、回数やペースを把握している。	入浴は、清潔保持の他、身体観察、体調変化の把握などの重要な役割があると考えていますが、決して無理強いすることなく、本人の意向を確認しながら週2回以上バイタルチェックと共にタイミングを見計らって、入浴が出来るよう支援しています。拒否の強い方には、入浴が出来るように雰囲気作りを大切にして支援しています。また、入浴剤や季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯などで入浴が楽しめるよう工夫しています。車椅子利用の方でも入浴出来るようにリフト浴も設置されています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は2時間ごと巡回して睡眠状態を確認している。トイレ頻回の入居者は排泄パターンを分析して、声掛け、誘導し、安心して眠れるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については提携薬局が一括で管理をしている。個人ごとに一包化された状態でホームに配達されている。家族会の時にご家族に現在処方されている薬について報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者各々の嗜好や特技を把握し、機会があれば全体の場で披露していただいている。決まった生活サイクルに飽きがこないようにイベントを盛り込み、利用者参加で楽しんでいただいている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力により、自宅や馴染みの美容院、ご家族との外食、お墓参りなどに外出されている。ホームでの外出、外食の際は、事前にご家族へ案内しており、ご家族が参加されることもある。	日常の散歩・外気浴は、子供センター、公民館などへの外出、菜園の手入れ、屋上での外気浴などを行っています。行事での外出は、初詣、桜の花見、いちご狩り、ひまわり見学、夏祭り、小淵ショッピングセンターなどでの外食などが行われています。事業所での外出、外食の際は、事前に家族へ案内しており、家族が参加されることもあります。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金制度があり、入居者の希望に応じて物品を購入している。また、収支報告を家族会のときに実施している。現金所持を希望される方に対しては、ご家族と相談の上、定額を持っていただき、トラブルにならないように配慮している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と連絡をとりたいとの希望があった場合は、職員が代行で電話をかけ、事情を説明し、本人とおつなぎする。 手紙の書ける方は、便箋やはがきを用意し郵送している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節ごとに撮影した写真や入居者自身が作った作品を展示し、家庭的な雰囲気作りを心がけている。 リビングにはテレビやソファを置き、有線放送も完備しているため、音楽を聴きながらゆったりとくつろげるスペースにしている。	インテリアの方針は、日常の家庭的な雰囲気を演出することにあります。利用者の楽しみにしていること、行事の記録、作品を過剰にならない程度に家庭的にセットしています。家族の来所時には様子がわかり話題に花を添えるようにしています。玄関、廊下、リビング、台所、食堂、浴室、トイレなど全て掃除が行き届き、不快音や異臭も無くリビングには適度な陽射しで明るく、空調も適温に保たれて寛げる空間になっています。食後、利用者はテレビの懐メロに合わせて歌を歌って過ごす方もおり、それぞれに過ごしています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには個人ごとの椅子のほかにソファを配置し、利用者同士がお話できるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居前に入居者が慣れ親しんだベッド、タンス、仏壇、鏡台などを持ち込んでいただいている。 各居室には、空調設備、加湿器が完備しており、快適に過ごせるように職員が室温、湿度の管理を行っている。	居室にはクローゼット・空調設備があり、空調管理は職員によって行われています。また、各々に使い慣れた鏡、椅子、ベット、を持ち込んでいる方やぬいぐるみ、仏壇等、思い出の物が置かれている他、家族写真等を飾るなど、一人ひとり、思いの思いの生活拠点を作り生活しています。居室の掃除は、朝9時から10時に職員が行いますが出来る利用者は手伝います。季節の衣服替えは、家族にお願いしています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の原因となる危険な物は置かないようにしている。 居室内にある不用品は、家族に持ち帰っていただくようお願いしている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

NPO法人  
グループホーム アダージョ

作成日

平成29年2月21日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	一つのユニットに新人の職員が集中して増えており、介護の質を保つための教育が必要。	新人職員、ベテラン職員の技術の差を近づけ、両ユニットにおける介護の質のバランスを整える。	新人職員へ介護の基礎を教え込み、技術向上に向けた研修にも参加していただく。また、最終的に上記が身に付き次第、ベテラン職員とのユニット間の入れ替えをする。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	NPO法人 グループホームアダージョ
ユニット名	Aユニット 2階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニット玄関、事務所、リビングに掲示している。職員は入社時に理念の説明を受けており、申し送りの際に唱和し共有確認している。 理念に沿い、音楽イベント開催、大沼小学校、大沼保育園との交流会実施。他、散歩にて地域住民と交流があります。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の大沼こどもセンターを散歩の休憩場所として利用し地域住民と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での催事や祭りに可能な限り出席し、近隣住民に対して施設への理解と周知に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年に引き続き、地域老人会会長に運営推進会議に参加して頂いている。会議ではホームの活動状況や懸案事項について話し合い、地域社会側からの要望や助言を頂いて運営に活かすよう努めている。また、以前入居ご家族にオブザーバーとして加わって頂き、率直なご意見を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相模原市の高齢政策課と連絡を密に取り、運営の方法について相談している。 事業所レベルで判断が難しい案件が生じたときは担当課と相談の上、処理にあたっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について施設内研修を実施。 各居室の施錠については、ご入居者の意向を尊重し、個別に対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の介護内容はユニットリーダーが常に監督し、必要があれば理事長に報告して再教育をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の判断能力が十分でない場合は、ご家族の求めに応じて、成年後見人制度について話し合い、手続きや機関を紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書をもとに利用者・ご家族に対して分かりやすく説明している。初回の請求額は概算を提示し、内訳についても説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談窓口を重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。 また、家族会（年4回）や運営推進会議（2ヵ月毎開催）を設けて要望を運営に反映できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各部署の責任者で構成される主任会議において、「職員の声」を共有し、検討している。良いアイデアや実現可能な要望については、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の賃金改善のため、処遇改善加算を申請している。就業規則や有給休暇管理台帳を事務所に備え付け、いつでも職員が閲覧できるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	予算で研修費を取っており、交通費・研修手当を支給している。また、研修のお知らせを掲示し、職員の求める研修に参加できるようシフトの調整を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相模原市のグループホーム連絡会や介護事業所交流会に出席し、同業者との交流を図っている。他事業所での良い取り組みがあれば、事業所に持ち帰り検討したうえで取り入れている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始前には、見学を勧めている。また、見学後には面談日を設けて、本人の不安なことやニーズについて話し合い、入所後の暮らしぶりを共有できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談時にご家族と話し合い、施設でできることを説明している。 特に主介護者の方には、辛かったことや困っていることを時間をかけて傾聴するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に要望をしっかりと聞きだし、場合によっては他の施設サービスを紹介することもある。 「介護情報サービスかながわ」を紹介し、ご自身でも検索できるように案内している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の自立度に合わせて、調理や洗濯、掃除を職員と協同して施設運営している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力病院外の通院に関しては、原則ご家族に付き添いの協力を要請している。 施設での催事においても、ご家族に協力を仰いで協働して進めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会記録をつけているので、長期面会の無い方にはホームから連絡を取って来所するように促している。 また、ご家族の協力により、馴染みの友人や兄弟の面会もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ケアカンファレンスを通じ、利用者の暮らしぶりについて意見を出しあい、席の配置やレイアウトについて検討している。 また、一人ひとりの趣味や嗜好を把握し、利用者同士が関わりあえるようなレクリエーション活動を取り入れている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	提携の特別養護老人ホームに入所した方は面会する機会を作り状況を把握している。退去後も協力が可能なご家族にはホームへ来所してボランティアとして協力を頂いている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「入居事前面談」にて今までの生活歴や趣味等をお聞きして面談記録を作成し職員内で共有している。入居後もティータイムやレク時の日常会話からご入居者の意向をくみ取る努力をしている。また、言語コミュニケーションが難しい方であっても、表情や動作等から読み取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前にはご入居者が実際に生活されているお宅の訪問をして生活歴、環境、生活サイクルのデータを取っている。 また、居室にはこれまで使用していた物を持ち込んでもらい、入居以前と変わらない生活が出来るように工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンスにおいて、介護職員からケアマネージャーに対して入居者の近況報告が行われる。変化の見られる入居者については課題を再設定しケア記録に入力するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、入居初期は事前面談の記録やご家族からの情報を基に暫定的な計画が立てられ、約1ヶ月は様子を見る。その後は家族会ごとの話し合いが持たれ、本人やご家族の意向を聞き、見直しが図られる。定期的に入居者、家族、関係者の意見を聞き、現状に即した計画をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状況は個別のケア記録に入力している。介護計画に記号を付し、ケア記録入力時にも同じ記号を使うことでケアマネージャーが計画を見直す時に役立てている。特記事項に関しては、申し送りファイルに記入し、職員は就業前に確認するよう義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険制度上のサービスでは対応しきれないニーズもあるため、可能な限り支援できるよう努めている。福祉用具やおむつ等はホーム提携業者以外から購入することもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での催事や祭りには職員が付き添いをして参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者やご家族の要望に応じて、協力医療機関の診療を月に2回受けている。専門医の診療や個別に懇意のかかりつけ医がある場合は、ご家族の協力で通院している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回提携訪問看護ステーションより看護師訪問がある。 職員は医療面における疑問や気づきを看護師に報告し、指示をもらっている。 また、電話連絡にて指示をもらうこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院中であっても、定期的に職員が訪問して情報を収集し、退院後円滑に施設生活に戻れるように準備をしている。 また、ご家族の求めがある場合は、医療相談に同席することもある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、当ホームはターミナルケアは行っていない為、入居時にホームで対応できることについてご家族に説明している。 対応としては重度化する前に提携を結んでいる特養への申込みを勧めている。また、重度化した場合、協力病院へ入院していただくこともある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月次の施設会議にて緊急時の対応確認の場を設けている。 疑問点は法人内の看護師や協力医療機関の看護師に質問し職員の実践力向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内避難訓練を実施。 スプリンクラー、消火器、自動通報装置等の備品は定期的に検査を実施し非常用食料、水、リハビリパンツ等の衛生用品を備蓄している。 また、自治会に加入し、地域と連携した防災対策に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス規程には守秘義務や言葉遣いについての注意事項が盛り込まれており、職員は入社時に説明を受けている。利用者ご家族には契約時に「個人情報使用同意書」を交わし、医療機関への使用について了承を頂いている。なお、サービス規程については年1回再教育の時間を設けている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	デパートへの外出時や買い物時には本人の意向を聞き、要望の品物を購入している。レクリエーション時にもできるだけ希望を聞き、ご自身で選んでいただいている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課はあるが、無理強いせずに入居者のペースで過ごせるように支援している。就寝や起床時間も個人ごとに対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を定期的実施している。希望のある方は、ご家族の協力を得て美容室に通う方もいる。また、本人の要望で化粧品を近くのドラッグストアへ職員付き添いで買い物に行くこともある。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と一緒の食卓を囲んでいる。下ごしらえ、配膳、後方付けなどはご入居者と協力して行われている。また、ユニットごとに定期的に外食をし、その場で皆様にメニューを選んで頂くことがある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事の摂取量は、介護観察記録に記録し管理を行っている。また、ヨシケイにて外注を頼み、カロリー摂取量の把握も務め、疾病等で食事制限がある利用者は個別のメニューで対応している。また、個人の嚥下能力にあわせ、食形態にも注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを習慣にしている。また、訪問歯科を定期的に入れて口腔ケアを実施している。舌苔ケアをしたほうが良いと歯科医師より指示があった入居者には個別に舌苔掃除ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記入を行い、個人ごとの排泄パターンを把握している。リハビリパンツ使用の方でも兆候が見られたら声掛けをして極力トイレで排泄できるようケアしている。尿汚染の少ない方はトレーニングパンツを試み移行するようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は主治医と相談しながら、服薬管理を進めている。また、ヨーグルトにオリゴ糖を混ぜて提供する等、腸内環境を良好に保つように取り組んでいる。できるだけ散歩や体操の時間を作り便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前と午後に入浴時間帯を設けている。拒否のある方でも無理強いせず、入っていただけのように各職員が一丸となって雰囲気作りをしている。入浴は入浴管理表に記録し、回数やペースを把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は2時間ごと巡回して睡眠状態を確認している。トイレ頻回の入居者は排泄パターンを分析して、声掛け、誘導し、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については提携薬局が一括で管理をしている。個人ごとに一包化された状態でホームに配達されている。家族会の時にご家族に現在処方されている薬について報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者各々の嗜好や特技を把握し、機会があれば全体の場で披露していただいている。決まった生活サイクルに飽きがこないようにイベントを盛り込み、利用者参加で楽しんでいただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力により、自宅や馴染みの美容院、ご家族との外食、お墓参りなどに外出されている。ホームでの外出、外食の際は、事前にご家族へ案内しており、ご家族が参加されることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金制度があり、入居者の希望に応じて物品を購入している。また、収支報告を家族会のときに実施している。現金所持を希望される方に対しては、ご家族と相談の上、定額を持っていただき、トラブルにならないように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と連絡をとりたいとの希望があった場合は、職員が代行で電話をかけ、事情を説明し、本人とおつなぎする。 手紙の書ける方は、便箋やはがきを用意し郵送している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節ごとに撮影した写真や入居者自身が作った作品を展示し、家庭的な雰囲気作りを心がけている。 リビングにはテレビやソファを置き、有線放送も完備しているため、音楽を聴きながらゆったりとくつろげるスペースにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには個人ごとの椅子のほかにソファを配置し、利用者同士がお話できるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居前に入居者が慣れ親しんだベッド、タンス、仏壇、鏡台などを持ち込んでいただいている。 各居室には、空調設備、加湿器が完備しており、快適に過ごせるように職員が室温、湿度の管理を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の原因となる危険な物は置かないようにしている。 居室内にある不用品は、家族に持ち帰っていただくようお願いしている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

NPO法人  
グループホーム アダージョ

作成日

平成29年2月21日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	一つのユニットに新人の職員が集中して増えており、介護の質を保つための教育が必要。	新人職員、ベテラン職員の技術の差を近づけ、両ユニットにおける介護の質のバランスを整える。	新人職員へ介護の基礎を教え込み、技術向上に向けた研修にも参加していただく。また、最終的に上記が身に付き次第、ベテラン職員とのユニット間の入れ替えをする。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。